

ITと愛があるマネジメント
「アイマネ」

大反響第5期！

リーダーになったら！マネージャーになるなら！
**「ファクトベースで学ぶ
 ITマネジメント力アップ」
 集中コース**

- ◆ITマネジメントにおいて重要な項目を「ユーザー1000社のIT動向」というファクトをベースに、「ユーザー自らが語る事例」「簡単なワークショップ（ラップアップ）」で一通り学ぶコースです。
- ◆IT部門の次世代リーダーの方に最適のコースです。

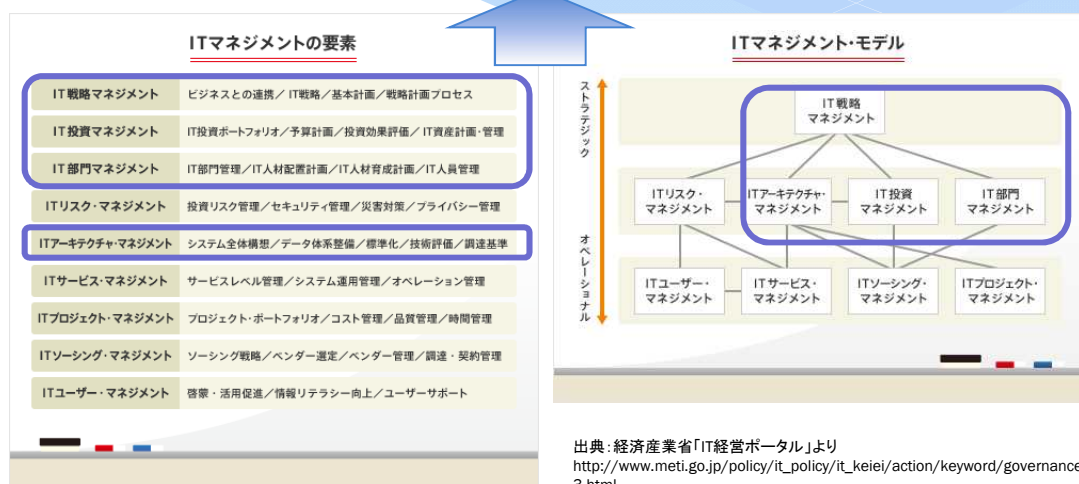
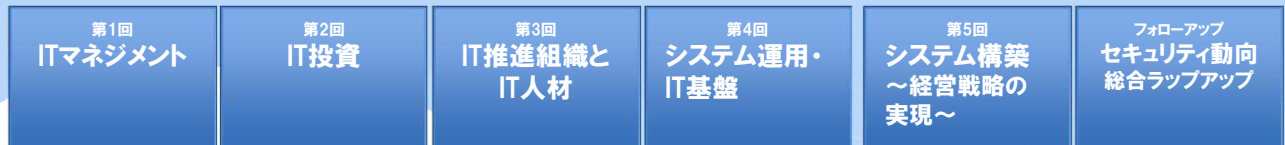
2017年9月より全5回＋フォローアップ

'17年9月27日(水)	10月19日(木)	11月15日(水)	12月7日(木)	'18年1月25日(木)	2月21日(水)
第1回 ITマネジメント	第2回 IT投資	第3回 IT推進組織と IT人材	第4回 システム運用 ・IT基盤	第5回 システム構築 ～経営戦略の 実現～	フォローアップ セキュリティ動向 総合ラップアップ

- 対象： IT部門の次世代リーダーの方
- 会場： 一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 会議室(東京日本橋)
- 参加費： 5回コース受講(限定25席)：JUAS会員/ITC：142,560円 一般：178,200円
スポット受講(12席)：JUAS会員/ITC：22,000円 一般：28,080円(いずれも1回あたり)
- 定員： 各回37名(コース25名・スポット12名)
- お申込： 一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 研修事業担当：姉川
- お問合せ： TEL：03-3249-4102 MAIL：seminar@juas.or.jp

◆本コースの目的◆

リーダーになったら、マネージャーになるなら、必須の素養であるITマネジメントの要素のうち今特に関心の高い5項目について学びます。



◆カリキュラムの4つの特徴◆

企業の取組み状況／トレンドを定量的に知る

ユーザー企業約1000社の回答からまとめたIT動向・取組状況を定量的に確認する。自社の立ち位置をベンチマークする。

型としての具体例を学ぶ！ ユーザー自ら語る事例

当該テーマに着手する際のポイントや留意点、心構えを事例から実感する。

将来のアクションにつなげる！ ワークショップ(ラップアップ)

簡単なワークショップ(ラップアップ)を行い、各テーマの実践に向けたマインドを醸成・体得。

他社の同じ立場の方との交流会

同じ立場の方との他流試合・仲間作り！

◆選べる受講形態◆

◇コース受講：5回＋フォローアップ通し受講(代理出席可)、特典あり

特典①各回ワークショップ(必須)

特典②意見交換会(3回・任意)の受講

特典③2017年5月発売「企業IT動向調査2017」(定価¥14,200)をプレゼント

◇スポット受講：参加したいテーマのみ受講

カリキュラム概要

※内容は諸般の事情により変更となる場合があります。

	'17年9月27日(水)	10月19日(木)	11月15日(水)	12月7日(木)	'18年1月25日(木)	2月21日(水)
	第1回 ITマネジメント	第2回 IT投資	第3回 IT推進組織とIT人材	第4回 システム運用 ・IT基盤	第5回 システム構築 ～経営戦略の実現	フォローアップ ・セキュリティ動向 総合ラップアップ
13:00 - 14:05	「開講式」 基調講演 「これまで、そしてこれからのITマネジメントとは」	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」本テーマについて、企業IT動向調査2017から現状と動向をご紹介します	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」本テーマについて、企業IT動向調査2017から現状と動向をご紹介します	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」本テーマについて、企業IT動向調査2017から現状と動向をご紹介します	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」本テーマについて、企業IT動向調査2017から現状と動向をご紹介します	
	(株)アイ・ティ・アール 代表取締役 プリンシパル・アナリスト 内山 悟志氏	日本情報システム・ユーザー協会 参与 浜田達夫	日本情報システム・ユーザー協会 参与 浜田達夫	日本情報システム・ユーザー協会 参与 浜田達夫	日本情報システム・ユーザー協会 参与 浜田達夫	
14:10 - 15:10 (QA10分含)	ユーザー事例(1) 「システムの見える化による「ふたつ(守りと攻め)のイノベーション」推進に向けて」	ユーザー事例(1) 「経営戦略に繋がるIT投資管理と評価への取り組み」	ユーザー事例(1) 「人とテクノロジーの融合を目指した新しい価値創造への挑戦 (ITによるイノベーションを起こすための組織・人材を目指して)」	ユーザー事例(1) 「リテール基幹システム刷新と業務改革への取り組み」	ユーザー事例(1) 「「物流の改革」を実現せよ 宅便の進化を支えるIT戦略」	
	住友生命保険相互会社 情報システム部長 汐崎 達氏	東レ(株) 情報システム企画部長 大橋 陽子氏	日本航空(株) IT企画本部 IT運営企画部長 小山 英之氏	野村ホールディングス(株) IT統括部長 和泉 哲郎氏	ヤマトホールディングス(株) 執行役員 (IT戦略担当) 田中 從雅氏	「ユーザー企業1000社のIT動向の今」セキュリティについて、企業IT動向調査2017から現状と動向をご紹介します
15:20 - 16:20 (QA10分含)	ユーザー事例(2) 「攻めるために守りを固める～ITマネジメントの基本、QC管理の整備～」	ユーザー事例(2) 「アサヒの攻めと守りのITマネージメントについて」	ユーザー事例(2) 「建設工事への先端ICT活用推進とそれを支えるIT人材育成」	ユーザー事例(1) 「さらなるシナジー創出を目指して～グローバル標準IT基盤の構築」	ユーザー事例(2) 「ビジネス価値創造への挑戦～日産におけるグローバルIS/IT戦略、その成果と今後～」	日本情報システム・ユーザー協会 参与 浜田達夫
	(株)資生堂 執行役員 グローバルICT本部長 亀山 満氏	アサヒグループホールディングス(株) IT部門 セネラルマネジャー 知久 龍人氏	鹿島建設(株) ITソリューション部長 渡邊 克彦氏	(株)三菱ケミカルホールディングス 情報システム室長 板野 則弘氏	日産自動車(株) グローバル情報システム本部 理事 能丸 実氏	ワークショップ(ラップアップ) ～私が今後取り組みたいITマネジメント～
16:30 - 18:30	ワークショップ(自己紹介/ラップアップ)	ワークショップ(ラップアップ) 「IT投資」	ワークショップ(ラップアップ) 「IT推進組織とIT人材」	ワークショップ(ラップアップ) 「システム運用・IT基盤」	ワークショップ(ラップアップ) 「システム構築」	
	ファシリテーター: 日本情報システム・ユーザー協会	ファシリテーター: 日本情報システム・ユーザー協会	ファシリテーター: 日本情報システム・ユーザー協会	ファシリテーター: 日本情報システム・ユーザー協会	ファシリテーター: 日本情報システム・ユーザー協会	ファシリテーター: 日本情報システム・ユーザー協会
18:30 - 20:00	意見交換会				意見交換会	意見交換会



✓5回コース受講: 5回+フォローアップについて、すべての時間を通して
ご受講いただく受講形態です。

受講対象
セッション



✓スポット受講: 各回をバラで受講いただく受講形態です。
ワークショップ・交流会はご参加対象外です。

受講対象
セッション



第1回「ITマネジメント」

■ 開校式

■ 基調講演

基調講演

「これまで、そしてこれからのITマネジメントとは」

講師:(株)アイ・ティ・アール 代表取締役/プリンシパル・アナリスト 内山 悟志氏

ITマネジメント概観



●講演概要

ITの重要度が増し、業務やビジネスに対してより積極的な参画が求められている今、ITマネジメントが益々重要になってきています。ユーザー企業において、経営に寄与するITとは何か。ビジネス戦略とIT戦略、そしてITマネジメントとはどのような関係にあり、ITマネジメントがうまくいくと何が嬉しいのか。その要素とは何なのか。企業におけるIT関連業務の全容を把握するとともに、非常に幅広い概念である「ITマネジメント」をわかりやすく整理してご紹介いただきます。

●講師略歴

大手外資系企業の情報システム部門、データクエスト・ジャパン株式会社のシニア・アナリストを経て、1994年、情報技術研究所(現ITR)を設立し代表取締役に就任。ガートナーグループ・ジャパン・リサーチ・センター代表を兼務する。1997年にガートナーグループとの提携を解消し、社名を株式会社アイ・ティ・アールに改め現職に。現在は、大手ユーザー企業のIT戦略立案・実行のアドバイス及びコンサルティングを提供する。近著『名前だけのITコンサルなんていない』(翔泳社) 『日本版SOX法 IT統制実践法』(SRC) その他寄稿記事、講演など多数。

■ ユーザー事例セッション

Session 1

「システムの見える化による「ふたつ(守りと攻め)のイノベーション」推進に向けて」

講師:住友生命保険相互会社 情報システム部長 汐満 達氏

攻めのIT戦略



●講演概要

デジタルビジネス時代が到来し、攻めのイノベーション(モード2・Systems of Engagement)への変革が求められています。しかしながら既存の基幹システムも事業においては重要な役割を果たすため、現状維持ではなく更なる効率化・自動化を図りコスト抑制していく必要があります。この攻めと守りを両立していくためには「ふたつ(守りと攻め)のイノベーション」を推進する必要があります。このふたつのイノベーション実現に向けた住友生命の取り組み、①「ITの現状を経営陣に正しく理解してもらうためのシステムの見える化」②「守りのIT(モード1)と攻めのIT(モード2)」推進について事例を交えてご紹介いたします。

●講師略歴

1988年住友生命入社。1992年より情報システム部にて多数の大型プロジェクト、他生命保険会社やベンダーとの合弁会社設立等のPMを経て、中長期的なシステム企画・戦略立案を担当。2015年より現職。

Session 2

「攻めるために守りを固める～ITマネジメントの基本、QCD管理の整備～」

講師:(株)資生堂 執行役員 グローバルICT本部長 亀山 満氏

コアビジネスを支えるIT



●講演概要

デジタル、AI、IoT、クラウド、セキュリティなどテクノロジーが日々進化している中、我々IT部門は、これらの流れを的確にキャッチして有効性を判断し、自社のビジネスに適用させていく事が求められています。これらは、いわゆる攻めのITと呼ばれる領域ですが、攻めるためには、まず足元が強固なものでなければなりません。

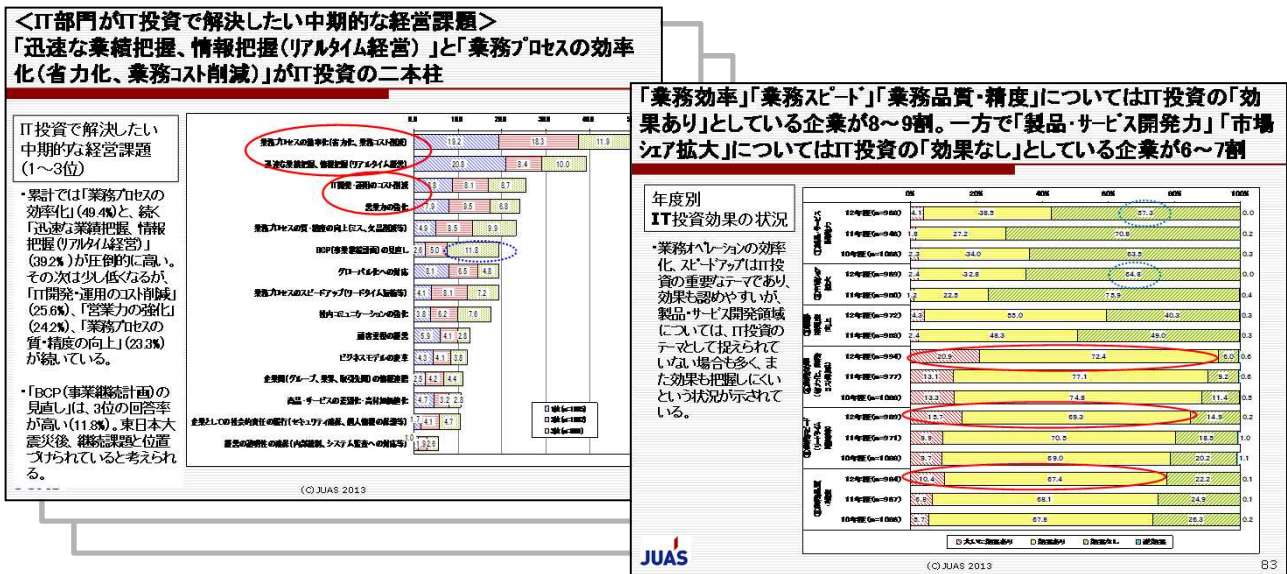
資生堂では、攻めのITを進める一方、ここ数年かけてシステム構築、プロジェクトの基本であるQCD管理のしつこくを計画的に整備してきました。本取り組みについて、事例を交えてご紹介いたします。

●講師略歴

2012年2月に(株)資生堂に入社、情報企画部長、資生堂情報ネットワーク 代表取締役社長などを経て、2016年1月より現職。前職は日産自動車。新型車開発(車両実験)からIT部門に異動し、全社業務改革プロジェクト、ゴーン改革の中で、車へのIT適用プロジェクトのリーダー、中国合弁企業のCIO、グローバルM&Sシステム本部長などを担当。この経験を基に資生堂のグローバル改革に貢献するICTを目指して取り組んでいる。

第2回「IT投資」

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2016」より



■ ユーザー事例セッション

Session 1

「経営戦略に繋がるIT投資管理と評価への取り組み」 講師:東レ(株) 情報システム企画部部长 大橋 陽子氏

IT投資の明確化と評価



●講演概要

東レは、中期経営課題「AP-G2016」で、「革新と攻めの経営」を掲げ、経営戦略に情報システムを活用するミッションとして、「グローバルな事業拡大、グループの業績の向上への貢献」「安全性・信頼性、コスト削減を両立する強靱な企業体質づくりへの貢献」を挙げ、実現のための積極的なIT活用を推進しています。2008年JUASセミナーではIT投資の評価を適正に行うための当社の取り組み事例をご紹介いただきました。その要点と運用状況を振り返り、さらに攻めと守りのIT投資バランス、社外サービス利用に伴うIT投資の今後の変化など、現在の課題認識と対策をとりあげてご紹介いただきます。

●講師略歴

1987年東レ入社、工場情報システム(原価管理、生産指標管理、製造管理)、販売・物流・購買他全社基幹システム、技術情報システムおよび繊維高次加工や炭素繊維のSCMシステムの開発、運用保守を担当。2015年に現職。

Session 2

「アサヒの攻めと守りのIT投資マネジメントについて」 講師:アサヒグループホールディングス(株) IT部門 ゼネラルマネジャー 知久 龍人氏

攻めと守りのIT投資マネジメント



●講演概要

攻めのITとは、本来守りのITがしっかり実施されているからこそ、攻めに転じることができます。ITは半永久的に継続させるだけでお金がかかりますが、単に更新するだけではITもビジネスも発展がありません。一方、攻める一方でのIT投資はコスト負担になるばかりです。アサヒの攻めと守りのITとは、年次計画単位であらゆるコスト最適化施策を実行しながら、戦略的投資の効果として得られた削減原資を新たなITイノベーションに投資。結果、コストは削減傾向に向きながら、ITは最先端で発展させられます。このコスト戦略とIT戦略が一体となったトレードオフのコストマネジメントを実際に取り組んだ事例を交えながらご紹介いただきます。

●講師

1986年アサヒ飲料(株)に入社。自社のシステム部門に所属してシステム全般に従事し、1995年に現在のアサヒビジネスソリューションズ(株)の前身となる情報子会社に出向。その後、2009年にアサヒビール(株)の情報システム部門に所属し、アサヒグループのIT全般のマネジメントを携わり、2011年にアサヒグループホールディングス(株)設立と同時に現職に至る。

第3回「IT推進組織とIT人材」

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2016」より

<IT推進体制(自社単体)>「現状」は「集権型」が7割、企業規模が大きいほど分業が進む。「将来」は「戦略・企画」をIT部門の主業務とし、「開発・運用」を情報子会社・アウトソーサーへ委託していきたいという意向

IT部門(自社単体)の組織形態	集権型: 会社で統 ・連邦型: 会社本部 ・分散型: 企画機能	IT部門発のビジネスイノベーションを進めるための「十カ条」
1. 集権型A	戦略・企画 開発 運用	⑩ 人材を育成する IT部門発のビジネスイノベーションを進めるための「十カ条」 IT部門発のビジネスイノベーションを進めるための「十カ条」
2. 集権型B	戦略・企画	
3. 集権型C	戦略	② 意識を改革する IT部門のメンバーの意識を改革することである。このため、「IT部門の役割ミッションとこれに対応した人材像やスキル・能力を再定義」して提示する。IT部門のミッション再定義にあたっては「メンバーの全員参加での議論」というやり方も一考すべきである。そして、あるべき姿を実現するための「アクションプログラムを作り推進」する。その一環として、「業務改革運動、ペーパーレス化、グループウェア利用促進など、全従業員を巻き込んだムーブメントを展開」することも一案であろう。
4. 集権型D	戦略	
5. 連邦型A	戦略・企画 開発 運用 (全社システム)	⑩ 人材を育成する IT部門発のビジネスイノベーションを進めるための「十カ条」 IT部門発のビジネスイノベーションを進めるための「十カ条」
6. 連邦型B	戦略・企画 (全社システム)	
7. 連邦型C	戦略 (全社システム)	② 意識を改革する IT部門のメンバーの意識を改革することである。このため、「IT部門の役割ミッションとこれに対応した人材像やスキル・能力を再定義」して提示する。IT部門のミッション再定義にあたっては「メンバーの全員参加での議論」というやり方も一考すべきである。そして、あるべき姿を実現するための「アクションプログラムを作り推進」する。その一環として、「業務改革運動、ペーパーレス化、グループウェア利用促進など、全従業員を巻き込んだムーブメントを展開」することも一案であろう。
8. 分散型	戦略	

現状:「集権型」75.1%、「連邦型」23.3%、「分散型」1.6%
 将来:「集権型」73.7%、「連邦型」24.0%、「分散型」2.3%
 ・現状と将来の比較では、「集権型A」が8.3ポイント減少
 ・規模別>1000人以上の企業では、1000人未満の企業より減少幅が大きい

■インタビューより
 世の中全体がクラウドサービス化していくときに、IT部門の関わりは、もう事業と一体になっていくのだと、それを意識した仕事をしてくださいたいということを、経営のメッセージとして発信した(機械器具製造)。

■イン
 やは、まずこういう理想、こういう仕してくれないです。ミッションはこうい
 要です。それさえ納得すれば自ら学
 ける。そういうことが重要だと思いま

JUAS (C)JUAS 2013

■ ユーザー事例セッション

Session 1

「人とテクノロジーの融合を目指した新しい価値創造への挑戦」
 講師：日本航空（株） IT企画本部 IT運営企画部部長 小山 英之氏

業務プロセスと組織再編



●講演概要

2014年6月にJALは「チャレンジJAL」宣言を発表。お客さまに最高のひとときをご提供するため、新たな価値創造をめざし、ロボットや最先端のITを取り入れたいいくつかの実証実験に取り組みました。今後はこのような取り組みを加速し、人とテクノロジーの融合を目指した新しい価値創造へ引き続き挑戦しています。これに伴い、IT部門の組織のあり方や人材育成について大きく変化していくことを目指しています。その取り組みについてご紹介いただきます。

●講師略歴

1992年に日本航空 情報システム本部入社。約10年間メインフレームの基盤を中心に担当。2002年から6年間国内線の営業企画業務を担当した後、2008年4月から現在のIT企画本部に異り、IT部門運営の業務に携わる。2016年4月から現職。

Session 2

「建設工事への先端IT活用推進とそれを支えるIT人材育成」
 講師：鹿島建設（株） ITソリューション部長 渡邊 克彦氏

環境変化とIT人材



●講演概要

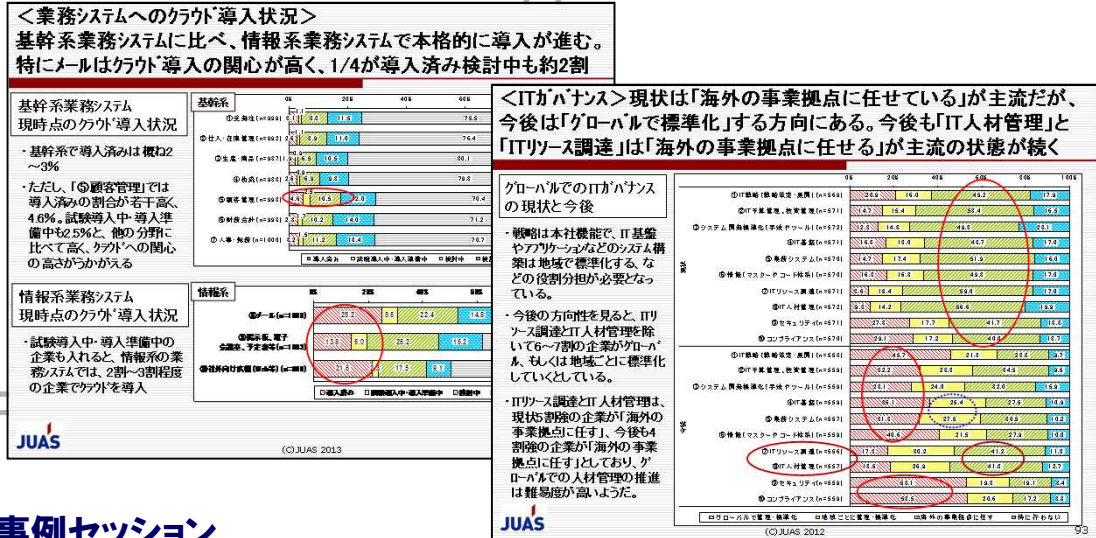
近年好況な建設業は就労人員不足とその高齢化が課題です。生産性向上はまったなしで、鹿島では無人重機による自動化施工、スマデバを用いた検査効率化、人員配置の最適化、などの対策を進めています。建設事業の最前線となる工事現場への先端IT適用とそれを支えるIT人材育成について事例紹介いたします。

●講師略歴

1980年入社。工事現場向けのシステム開発から始まり、80年代のAI、情報インフラ整備、基幹システム運営まで、企業内IT全般を経験。2012年より現職。

第4回「システム運用・IT基盤」

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2016」より



■ ユーザー事例セッション

Session 1

「リテール基幹システム刷新と業務改革への取り組み」

講師：野村ホールディングス(株) IT統括部長 和泉 哲郎氏

グローバルIT基盤構築



●講演概要

野村證券(株)は2013年1月リテール部門の基幹システムを共同利用型のサービス(NRI社STAR)に全面移行しました。移行に際しては共同利用型サービスのコストメリットを生かし、最小限の追加開発に留めるために「STARにに合わせて業務を見直す」を合言葉に当社業務の全範囲にわたる改革を実施しました。業務改革の結果、システム規模を半減させ、運用コストを大幅に抑制することができましたが、一方で、全ての社員やお客様に影響が及ぶ極めて難易度の高いプロジェクトとなりました。このセッションでは、いかにこの難易度の高い大規模プロジェクトの困難を克服し、大胆な業務改革を同時に実現できたのか、その背景や具体的な取り組み等を紹介します。

●講師略歴

1988年 野村證券入社 姫路支店にて個人営業を担当。その後1991年より本社にて企画を担当。確定拠出年金の制度とビジネスの立上げ等制度商品の企画・開発に携わる。2010年から「リテールITプロジェクト室」に配属され、STAR移行プロジェクトを担当。その後、HOST脱却プロジェクトも担当。2013年よりIT基盤戦略部長として主にリテール部門のITインフラを担当。2017年より野村ホールディングス IT統括部長としてIT戦略、統制全般を担当。(現職)

Session 2

「さらなるシナジー創出を目指して～グローバル標準IT基盤の構築」

講師：(株)三菱ケミカルホールディングス 情報システム室長 板野 則弘氏

システム運用



●講演概要

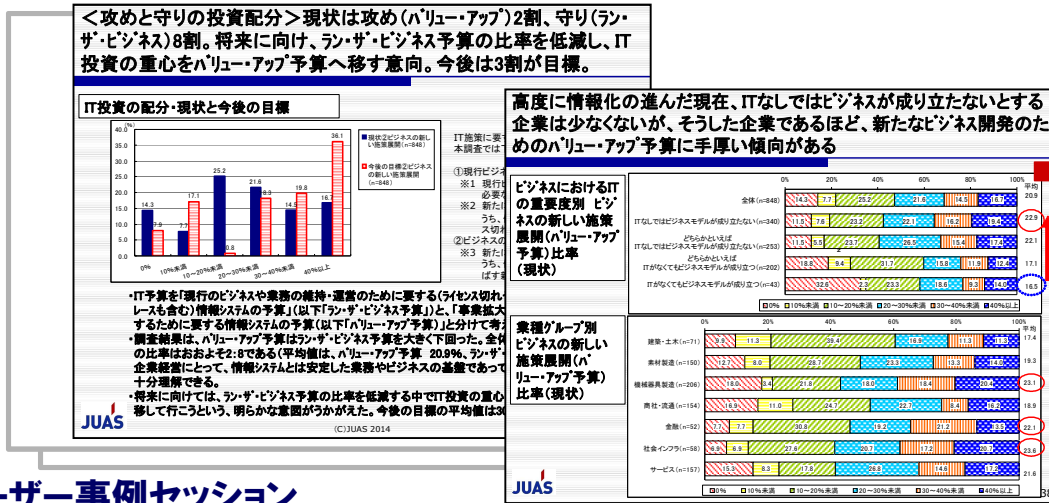
三菱ケミカルホールディングスでは、グローバルでのアライアンスおよびM&Aを戦略的に推進してきました。その変化の中で更なるシナジー追及に向けて“世界標準”で利用できるグループ標準クラウド基盤の創出に取り組んでいます。欧米拠点に“日本仕様”を押し付けることなく日米欧3極の共同歩調によるプロジェクト体制を作り、結果としてITガバナンスが発現した活動事例をベースにお話いただきます。インフラだけでなく、グローバルIT戦略を策定する際の課題と解決策についてお話いただきます。

●講師略歴

1989年三菱化成(現三菱化学)入社。水島事業所にて、主にプラント自動化、設備管理システム構築、機器設計等に携わる。1996年生産技術の米国拠点を立ち上げる為、米国シリコンバレーに3年間駐在。帰国後、2000年三菱化学本社情報システム部に異動、ビジネスへのIT活用推進を担うとともに、石油化学工業協会にて5年間、化学業界の世界標準EDIの普及推進を行う。2012年三菱化学情報システム部長を経て、2015年4月より現職。

第5回「システム構築～経営戦略の実現」

■ ユーザー企業動向の一例～「企業IT動向調査2016」より



■ ユーザー事例セッション

自社の経営戦略・IT戦略を実現するシステムを開発するためのマネジメント(システムへの落とし込み・実現方法の選択、合目的性の評価等)について実例をご紹介します。

Session 1

「物流の改革」を実現せよ 宅急便の進化を支えるIT戦略
講師:ヤマトホールディングス(株) 執行役員(IT戦略担当) 田中 従雅氏

経営戦略とIT戦略の一体化



●講演概要

「攻めのIT経営」「デジタル経営」、昨今、企業を成長させるキーワードとなっており、IT部門への期待も高まっております。その中で、ビジネスやテクノロジーの将来を見越して、自社なりのIT戦略をどう考えていくのか。2019年に創業100周年を迎えるヤマトグループは、サービスの投入と並んで、ビジネスを「押し上げる力」としての戦略的基幹システムの整備にもいち早く注力。74年から続く同社の基幹システム「NEKOシステム」は、現在第8次の構築が進行中です。その変遷の根底には、ビジネス変化を見通し、テクノロジーを先取りして、システムへと埋め込み新商品を開発してきた歴史が息づいています。そして今、クラウド化やスマートデバイスの活用、グローバル化が加速する中でどのような哲学を持ってインフラを創り上げていくのか。ヤマト流基幹システムの考え方の変遷と最新の取り組みを、ご経験と共にご紹介いただきます。

●講師略歴

1981年4月入社。1984年11月16日に発生した世田谷ケーブル火災を機に発足した広域災害対策PJに参加、以後、広域災害対策に従事すると共にNEKOシステムの開発・運用に携わる。2011年4月よりヤマトホールディングス株式会社シニアマネージャー(IT戦略担当)、兼ヤマト運輸株式会社情報システム部長、2016年4月より現職を担い、現在に至る。

Session 2

「ビジネス価値創造への挑戦～日産におけるグローバルIS/IT戦略、その成果と今後～」
講師:日産自動車(株) グローバル情報システム本部 理事 能丸 実氏

ビジネス価値創造に貢献するIS/IT



●講演概要

近年、企業を取り巻く環境は刻々と変化し、その変化のスピードは速くなるばかりです。日産自動車の中期経営計画達成のため、現在、IS/IT部門からのビジネス支援をミッションとしたグローバルIS/IT戦略「VITESSE」を強力に推進しており、最終年度を迎えています。フランス語で「速さ」を意味するVITESSE。モノづくり企業のIS/IT部門が、新たな価値を創造・提供し、経営戦略を実現する「攻めのIT」部門へ変わるための数々の困難な挑戦を行ってきたご自身のご経験を交えて、その取り組み成果と、VITESSEに続く次期戦略について、ご紹介いただきます。

●講師略歴

日産自動車入社後、生産技術開発に従事。1995年より情報システム本部へ異動し、システム開発、運用、企画統括の担当を経て、グローバル情報システム本部の本部長としてグローバル戦略立案、実行をグローバルにリードする。現在、同本部理事として経営に貢献できるIS/ITを目指し、新たな挑戦に取り組んでいる。